

まほらいな市民大学の様子

令和5年11月18日（土）第45回高遠町桜大学第4講座

## 『「満蒙開拓」という歴史が語りかけてくるもの』

講師 満蒙開拓平和記念館 事務局長 三沢 亜紀 氏



三沢亜紀氏から、満蒙開拓の歴史的背景と実際、そして開拓団の末路について話がありました。国策として満蒙開拓団は全国から約27万人が入植。そのうち長野県が3万3千人で全国で一番多く、飯田下伊那8400人、上伊那2600人であった。この国策に市町村や教育会もかかわっていた。満州には、伊那富、蕨原、三峯、伊南などの分村・分郷ができ、満蒙開拓青少年義勇軍も結成された。しかし、その満蒙開拓の実際は語られてこなかった。いや当事者は語れなかった。開拓団の半数の人が亡くなり、半数は日本に帰って来たが自分の帰る場所がない上に世間からの差別というものがあった。満州での悲惨な生活。ソ連の対日参戦と満州の占領。シベリア抑留や収容所での捕虜生活。1946年5月からの日本人引き上げ開始と中国残留日本人の事など、三沢氏はわかりやすく話された。満州で日本人孤児を助け育てた「李さん」のインタビュービデオは、人間愛に溢れ琴線に触れる話であった。中国残留孤児の帰国支援運動を行った阿智村長岳寺住職山本慈紹氏のことにもふれて話があった。そして、歴史を学ぶとは、事実を多面的に見ることの大切さやその過ちを二度と繰り返さないための学びが大切であると語られた。

学生からは、「満蒙開拓の大変悲惨な、また悲しい歴史を学ぶことができました。戦争は残酷です。二度と起こしてはなりません。平和を願います。」「日本人孤児を救った李さんのビデオに涙が止まらなくなりました。当事者の野中さんの証言も泣けてしまいました。満蒙開拓平和記念館に足を運んでみたいと思います。」「とても良い勉強になりました。今も戦争があり、こんな過ちは繰り返さないことが大切。日本を良い国にしたいです。」といった感想がありました。